

A分科会テーマ:図書館員のためのIT講座:情報技術のスキルアップをめざして(報告書用)

参加:13大学 1機関 19名

講師:三浦(愛大豊橋)・天野(椋山女学園)

全体会発表者:山田(中部大)

担当委員:司会:浜野(鈴鹿医科大)、加藤(南山大)、記録:加藤(愛工大)・葦島(中部大)

■ はじめに

A分科会では、参加者が今後情報リテラシー教育の支援に活用できるような情報技術について学んだり、日ごろの業務で生じた疑問やトラブルを少しでも解消できるような分科会を目的とし、2名の講師の方にご協力いただきIT講座を行なった。また各館からの事前アンケートの質問を中心に、参加者による意見・情報交換が行なわれた。なお事前アンケートの回答事例を末尾に掲載した。

■ 講座 1:「基本的なトラブル対策事例について」 三浦文博(愛知大学豊橋図書館)

*レジュメ参照

<質疑応答>

Q. 「ライトプロテクト」というメッセージが出て、アプリケーションが利用できなくなったことがあったのだが。

A. この場ではなんともいえないが、前回の終了がうまくいかなかった場合も考えられる。

■ 講座 2:「一人で作れる簡単データベース～情報活用のために、マクロを使って情報整理」

天野由貴(椋山女学園) *レジュメ参照

*なお事前アンケートの質問に対する情報提供として下記の資料が紹介された。

①「インターネット活用のための情報モラル事例集」コンピュータ教育開発センター

2001年3月発行 *コンピュータ開発センターのHP内「刊行物案内」の「平成12年度刊行物」内にも掲載されているとのこと。

②「知っておきたい情報モラル Q&A」(岩波アクティブ新書)久保田裕・佐藤英雄著

岩波書店 2002年3月発行

<質疑応答>

Q. ExcelとWordを組み合わせる必要はあるのか。Excelのみではだめか。

A. 文書保存についてはWordの方が優れている。Excelではアプリケーションエラーが生じたりする場合あり。また文書作成に制限あり。

Q. ExcelとWord両方にデータを入力するのか

A. Copy を利用。リンクも可能である。

Q. Access を利用してはどうか。

A. 有効だが利用勝手は Excel がベターではないかと思う。Excel は機能豊富である。
基本的に Excel はたいていのパソコンにインストールされている。

■意見交換

I. 館内PCのセキュリティ対策について

・DBにデータのダウンロード機能があるが、図書館でFD等へのダウンロードを制限している場合があるか。(日外アソシエーツ)

→不特定多数の利用者であるため何をされるかわからないので制限をかけている。

ただしプリントアウトはできるようにしている。

→館内の端末は情報検索用なのでフロッピーを使う利用の仕方はお断りしている。

・インターネット接続先の制限は可能か

→フィルタリングソフト有。但し維持費が高額。

→個別設定で可能

II. 学生の利用について

・端末・プリンターの運用

→カウンターから見えるところに端末とプリンターをおいて1枚10円で有料にしている。

→申し込み用紙に記入させ利用時間は30分と制限している。

→インターネット用端末は申し込み用紙に記入させ利用時間は2時間である。プリントアウトは無料で無制限なので大量にプリントアウトをする者もいる。

→事務室にプリンターがあるのでおかしな印刷はされない。

→インターネット上の情報を扱うにはモラル教育が必要。私的な回線を使うことによって、混み合う原因となり研究者の迷惑となることをわかってもらう。間違いで何十枚も出してしまうたり、無料だと思いとたくさん印刷してしまうので、自分で選択し、確認し、入手することを指導している。ワードやエクセルは学生用端末で使わせないようにしている。

→端末の利用時間を20分と制限している。また検索する目的とテーマ、キーワードを申し込み用紙に書かせている。

→学外者のプリントアウトについては1日中すわりっぱなし等、極端な場合は利用証の発行を制限する場合がある。

→高額で利用が多いソフト用のパソコンの場合は、椅子なしのスタンド方式にしている。

→用紙は持参してもらう。有価証券報告書のデータベースでの検索結果などはフロッピーにダウンロードもさせている。

→データはFDに落とすようにし、プリントアウトを希望する場合はPC教室でしてもらう。

- 一般利用者も制限をかけず無料でプリントアウトさせている。
- プリント制限ソフトを利用している。
- プリントしたいという学生さんがいた方が活発に使ってもらえているということだから良いのでは？

- ・ネットワークの停止時の学生への周知について

- 事前にわかっている場合はHP上に明記。突然のトラブル時は周知する余裕がない。

Ⅲ. ホームページを利用した利用者サービスについて

- ・ホームページでのILL受付を始めてから件数が増加しているか？

- 便利になったからと言って申し込みの件数は増えていない。利用者にとっても来館せずに申し込みできて便利であり、また処理を行なう者にとっても手書きではないので文字が見やすいし、メールで諸連絡がとれるので便利である。公費扱いのみで学内メールで現物を送るため申し込んだきり、図書館に受け取りに来ないという問題も起きていない。

- ・パスファインダーについて

- 文献案内・研究者に役立つサイトを集めて紹介している。

- パスファインダーについて九州地区は進んでいる。

- ・Webでのアンケートの取り方について

- 現段階ではむずかしいし、手間がかかる。

- ・ITを活用した今後のサービスについて

- 予約到着したものの一覧や自分が何を借りているかを自分でチェックできるようにすることが可能性として考えられる。

- ・掲示板の活用について

- 学生からの意見(紙によるもの)に対する返事・回答を掲示板に掲載している。双方向ではない。

- ・ITを利用したその他のサービス

- HPに紀要を掲載している。論文執筆を依頼するときに掲載するか、しないかを前提に書いてもらうよう依頼する。

- 電子ジャーナルの導入については導入に熱心な学部が5誌をピックアップし、購入を決定した。冊子体を購入していることによって無料で見える電子ジャーナルも含めて、タイトルのアルファベット順のリストをホームページ上に掲載している。

- 接続できるか確認しながらとか、いつからいつまでできるか確認して1つ1つリンクを張っていく作業は大変である。リンクを張ったら自宅からも見えてしまった問題が生じた。

- ・隠しアドレスで出しているものは知っている人が検索をかけたらわかってしまうか？

- 通常は問題ない。

- ・ホームページ上にメールアドレスを載せている場合、ウィルスメールがくることはないか？

- ある。ウィルスチェックをまめにかけて更新することが必要。当館ではシステム管理室が

管理している。プロキシがしっかりするようになった。好ましくないサイトへのチェックもできる。図書館だけでは対応しきれないのが現状である。

IV. その他

- ・ブロードバンドのコンテンツを見ることについての将来性は？(日外アソシエーツ)
→価格が下がり体系が利用しやすくなれば、広がる。但し図書館ですぐ導入されるかどうかはわからない。光ファイバ環境等の問題もあり過渡期であると思う。
- 著作権の問題は？－図書館が画像配信することの問題点
- ・図書館へのパソコンの持ち込みについて(日外アソシエーツ)
→図書館に限らず、学生サービスとして学内に情報コンセントを設置し自由にパソコンが利用できる環境ができている。

事前アンケートの質問に対する回答事例

* 回答については、主に講師の方々にご協力いただきました。

I. 基本的なトラブル対処事例について

- Q. IEの情報を印刷する際、途中で切れたりする。改ページ指定はできないか？
- A. ①IEページ設定で余白を小さくする。
②余白を最も小さくしても入りきらない場合、有料ソフト(例えば Acrobat)を利用して、印刷すると拡大・縮小が自由にできる。
- Q. Altと半角/全角キーを押しても日本語入力とならなかった場合の対処法
- A. ・コントロールパネルのキーボード設定、又は地域と言語のオプションで日本語を再設定する。
・アプリケーションの再起動、OSの再起動
・IMEの再インストール
- Q. 画面がフリーズしているときや Windows が終了しない場合の対処法
- A. しばらく待ち、表示されるメッセージで切り分け(ハードディスク障害、ネットワーク障害の場合はフリーズ状態が続きやすく10分後ぐらいにエラーメッセージが表示されることも)
・Windows NT 系では Ctrl+Alt+Delete でタスクの状況を確認。なお、(強制)シャットダウンで電源断できることもある。
・電源の強制切断(スイッチ4秒以上長押し)、メインスイッチオフ、コンセントを抜く。
- Q. メールがFDやMOに保存できない。
- A. メールを文字化け。他のソフトを経由して保存・変換できないか検討
- Q. アプリケーションが突然使えなくなった。

A. ・アプリケーション・OSの再起動

- ・スタートアップファイル(例 Word の”dot”ファイルなど)の抑止
- ・アプリケーションのアンインストール&再インストール
- ・正常稼動している同一構成PCからファイル、レジストリをコピー
- ・OSの再セットアップ

II. 館内のPCのセキュリティ対策について

Q. 学生用端末へのいたずらに対して予防法はないか。(アイコンを消してしまう、端末を立ちあがらなくする等)

A. いたずらされても電源の再投入で元の状態に戻るハード(例えばComGuard)を利用する。

Q. ー1インターネット上のサービスを提供しつつもネットサーフィン等の趣味的な利用を制限した利用者端末や学内からHPにアクセスし、著作権侵害になるような不正なダウンロード(動画など)をする者がいる。これを勧告するようなよい方法は？

ー2端末にフィルターをかけてアクセスできるサイトを制限できる方法は？(当館のWeb OAPC用端末のうちWin機はIEを設定しコムガードの使用で制限している。)

A. フィルタリングソフトを利用する。 各社からいろいろ出ている。

Q. 利用者端末の電源切断にどう対処されているか。

A. 電源を一括投入、切断したい場合にはそれができるハードがあるのでそれを利用する。

Q. BIOS 変更についてはどう対処しているか。

A. BIOS メニューに行くパスワードを設定していたずら防止を図る。

Q. いたずら防止ソフトやポリシー設定で防げるか。

A. 全部を防げないのでいたずら防止ハードを取り付けないと困難である。

Q. 一元管理システムなどがあるか。

A. OS付属の機能を使って作業する。使い方は Windows リソースキットを参照。ただし使い方がむずかしいので Microsoft 以外の市販ソフトを利用する方法もある。

Q. 学生がOPAC専用端末からインターネットに入ったり、勝手に設定などを変更したりするのを防止する良い方法はないか？

A. パソコン本体にハードキーパー等のソフトで利用制限をかけることは可能。また設定を変更したとしても、ソフトを入れてあげれば再起動した際に初期設定の画面に戻るので設定は変更されない。

・プロキシによる接続先制限(ポリシー併用)・フィルタソフトの導入・利用状況監視(フェイクでも効果あり?)

Q. 学生用端末にダウンロードを制限させる方法はないか?

A. 上記のようなソフトで利用制限をかけることは可能。アクセスできるディレクトリの範囲も決められる。

Q. ダウンロードしていたサイトが国際的なもので高額な費用が発生するものの場合アクセスそのものを制御できるソフトはあるのか?

A. アクセスそのものを制御できるソフトではないが、制限させる方法としてプロキシによる接続先制限(ポリシー併用)・フィルタリングソフトの導入・いたずら防止用のハードの取り付けなどが考えられる。

■まとめ

情報リテラシー教育の支援をおこなうためにも、図書館員は多様化する情報メディアの活用を今後ますます求められていくであろう。また情報環境においても、運用と管理の面から日々さまざまな問題に対処しながら、利用者がより利用しやすい環境を整えていかなくてはならない。今回事前アンケートや当日の分科会で、我々が直面しているITに関する問題の多様さを実感した。そのような問題に対処したり、それぞれ館員が効果的にスキルアップしていくためには、このような有効な情報をシェアしあう勉強会、情報交換会を行っていくことの必要性を実感した。